



<教育目標>

英知の風かおり 友愛の情ふかく 精励の志つねに

中野中学校だより

平成 29 年 1 月 10 日発行

No.12 校長 矢口 仁

体幹を改善する - 駅伝を見て思う - 校長 矢口 仁

初日の出 しいだいに見ゆる雲静か 夏目漱石

新しい年がやってきました。今年の三が日は、「新春」という言葉にふさわしい穏やかな日が続きました。そんな落ち着いた一年になることを期待しています。

さて、私は毎年正月に駅伝を見るのが好きで、今年もニューイヤースタート駅伝、箱根駅伝を楽しみました。単純なスポーツですが、選手たちの頑張る姿から元気をもらいます。箱根駅伝では青山学院大学が、三年連続完全優勝という輝かしい成績を残しました。原晋監督の指導と選手たちの努力の賜物だと思います。

その原監督ですが、十年間のサラリーマンでの経験を生かし、独自の理論と実践で実績を積み重ねてきました。彼の言葉にはとても深みがあります。

「学生は速ければいいのではない。社会に出てから箱根以上の輝きを放つ選手を育てたい。」素晴らしい選手を育てることだけでなく、社会で通用する人間を育てるといふ姿勢でいます。また、長い距離を走るために、下半身だけでなく体幹を鍛えることや柔軟性を重視しています。目標達成のために、部分だけでなく、全身をたくましく柔らかく育てることを大切にしているのです。

そのことから、2年生の国語の教科書に載っている大岡 信さんの「言葉の力」を想起しました。彼は、美しい言葉は、それが単独で美しいのではなく、それを発する人間全体を背負っているのだと言います。

美しい桜色の着物は、素人は桜の花びらを煮詰めて染めると思いがちですが、実は花の咲く直前の木の皮で染めるそうです。桜は木全体で桜色をつくり出そうと、懸命になって生きています。その力が、美しい桜の花びらの一片となって現れるのです。

それが、言葉と人間全体の関係にあるのではないかと投げかけます。私たちが発する言葉は、その生き様や考え方の全てを背負っています。口先だけの言葉には、重み・真実が感じられず、言葉は、その人の全ての世界を反映するものだと思います。

新しい年のスタートにあたり、新鮮な気持ちで、新たな目標を掲げていると思います。目標達成のために、目標そのものだけでなく、生活習慣全体、自分自身全体を変えていながら、大きな成長を目指してほしいと思います。

本年も、中野中学校の活動へのご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。

